

第2期の始まりにあたり

林産試験場長 菊地伸一

「これまで以上にきめ細やかに事業，起業支援を推進していきます」
「コンパクト，タイムリー，スピーディをモットーに，
ニーズに基づく研究の支援，実行，実現に努めます」
「研究主幹を中心にグループを単位として，専門性を必要とする分野には
主査を配置しながら効率的な対応を期していきます」

これらは道総研がスタートするに当たっての林産試験場の決意を本誌2010年4月号で述べたものです。それから5年。この4月から独法道総研，そして林産試験場は，新しい中期計画に基づく研究に取り組んでいくこととなります。そのスタートに当たり，これまでの5年間の報告とこれからの5年間の方向をお示しします。

○第1期の成果

- ・農産物残さ，廃プラスチックを原料とするペレット燃料製造技術（企業生産）
- ・きのこ成分の利用技術（サプリメント，健康食品の販売）
- ・カラマツCLTの製造条件と性能評価（CLT建築物の建築）
- ・カラマツ心持ち正角材（コアドライ材）の製造技術（企業生産）
- ・保存処理木材中の薬剤成分の高精度分析方法（JAS改正）
- ・道産2×4製材の性能評価（JAS改正）
- ・道産材利用による経済波及効果の推計（行政施策支援）

これらは，この5年間に実現した研究成果と活用先の一部を示したものです。本誌2015年1月号でも述べましたが，不十分さは多々あり，これで良し，とは考えていませんが，成果は確実に積み重ねられています。道内企業に活用いただいている技術も少なくありません。この5年間の活動報告を，林業試験場の成果と併せ「森林研究本部研究成果選集」として冊子にまとめ，ホームページにも掲載しました（<http://www.hro.or.jp/list/forest/research/fri/about/seikasensyu.html>）。林産試験場のガイドブックとして，技術開発・製品開発の技術シーズ集としてご覧いただき，林産試験場との対話を深めるきっかけになることを願っています。

○第2期の重点研究項目

第2期中期計画に示されている林産試験場が係わる研究項目は，第1期と基本的には大きくは変わりません。すなわち，次の4項目となります。

- ・森林バイオマスの総合利用の推進
- ・木材・木製品の生産と流通の高度化
- ・木材・木製品や木質構造物の安全性，信頼性，機能性向上
- ・きのこの価値向上

現在，林産試験場が研究を進めるこの4項目について，現状，情勢，課題を分析し，第2期5年間で重点的に取り組む研究項目を明確化する作業を進めているところです。重点研究項目として，

- ・バイオマスエネルギーの供給システム
- ・道産材を用いた木質複合材料
- ・木材利用モデル
- ・合理的な接合部の設計手法
- ・経済波及効果の評価方法
- ・道産きのこの育成

といったキーワードを抽出しています。

全体が整理されるまでには、若干の時間を要することになりますが、研究グループの重点研究分野が整理され、引き続き、展開方向、ロードマップ作成に入る段階にあります。

○第2期の研究体制

第2期中期目標の研究の推進方向に沿って、研究体制の見直しを行いました。概要は次のとおりです。

- ・性能部は、性能、品質の安定した木質構造材料等の開発・評価に係る研究を重点的に進めるため、グループ体制を「構造・環境G」と「保存G」に再編し、材料・構造に関する研究体制の強化を図りました。
- ・利用部は、人工林資源の将来動向を見据えた木材利用システムに関する研究を拡充するため、「マテリアルG」を「資源・システムG」に改称するとともに、主査（利用システム）を設置しました。
- ・技術部は、研究内容を適切に示すための改称を行うとともに、木質材料の生産技術に関する研究体制の充実を図りました。

新しい組織の詳細は、ホームページの「組織紹介 (<http://www.hro.or.jp/list/forest/research/fpri/organization/index.html>)」をご参照下さい。

これら、重点研究項目の設定、および研究体制変更の基本的な視点は、端的に言えば「研究の一層の重点化とそれを支える体制づくり」にあります。具体的には、

- ・誰が、いつまでに、その課題の解決を望んでいるのか
- ・どのように道内産業の発展と雇用の増大につながるのか
- ・対象となる産業が具体的に想定されているのか

ということを考えつつ、研究項目、研究組織の重点化を図ったところです。

○これからも、皆さまとともに

私たち林産試験場は、あらためて、森林産業の振興、が組織の存在意義であることを認識し、そのときどきの産業、行政の重要課題解決に全力であたる義務があることを認識し、冒頭に掲げた3つの方針を堅持しつつ、これからの5年間を歩んでいきたいと考えています。